

全世界の人々に衝撃を与えた
「未知との遭遇」に
今、新しい特撮と再編集。

あなたは、主人公ロイ・ニアリーと共に
遂に、あの巨大な
マザーシップの中に入る。

未知との遭遇

特別編

THE SPECIAL EDITION

CLOSE
ENCOUNTERS
OF THE THIRD KIND

コロムビア映画 / EMI 提供

フィリップス・プロダクション / スティーブン・スピルバーグ作品

リチャード・ドレイファス / テリー・ガー

メリンダ・ディロン / フランソワ・トリュフォー

音楽ジョン・ウィリアムズ / 視覚効果ダグラス・トランブル

撮影監督ビルモス・ジグモンド

製作ジュリア・フィリップス & マイケル・フィリップス

脚本・監督スティーブン・スピルバーグ

サントラ盤アリスタレコード  Panavision®

© 1980

© 1980 COLUMBIA PICTURES INDUSTRIES, INC.





未知との遭遇

特別編

THE SPECIAL EDITION

CLOSE ENCOUNTERS

OF THE THIRD KIND

© 1980 COLUMBIA PICTURES INDUSTRIES, INC.



<かいせつ>

1976年12月31日に撮影が開始されて以来、翌年11月16日全米での最初の公開まで、まったく秘密のヴェールに包まれていた「未知との遭遇」。そして、全世界で1億以上の人びとがまったく新しい衝撃を体験することになったのである。すべてを秘密にしたのは、その体験をより一層効果的に味わってもらうためにほかならなかった。各国の劇場は、十重二十重の観客に取りこまれて、今日までに、この素晴らしい映画は、日本円にして320億を稼いだ。当時、コロムビア映画の株価が3倍にはねあがったというのも肯げようというもの。

フェニックスの高校生だった16歳の頃、空中に現われる不思議な光を探究する科学者を主人公にした「火の光」"Firelight"という2時間半の8ミリ映画を製作したスティーブン・スピルバーグ監督。彼は少年の時から、UFOに強い関心を抱いていた。

「未知との遭遇」について、プロデューサーのジュリア・フィリップスはこう語っている。「この映画は、単にUFOと、UFO問題に関する映画ではありません。これは、スティーブンのフィーリングなのです。宇宙には何かがあるのです。そのことに関して、そろそろ教えてもらってもいい頃ではないでしょうか。そして、わたしたちが最も共感している点は、彼が人間の映画をつくるということ。観客が思い入れできる人間の映画ということです。この映画での主人公ロイも、どこにでもいる男で、あなたの友人かも知れないし、ひょっとしたら、あなた自身かもしれない、そんな人物です。」

スピルバーグは「未知との遭遇」をつくり、人びとを驚嘆させたけれど、彼にいわせると、160ページのシナリオのうち135ページしかつくっていないという。いろいろな事情があるにせよ、監督としては、160ページを完成させたいと思うのは当然のこと。彼はコロムビア映画と話し合い「ロイはあのあと巨大なマザーシップの中で何を見たのか?どうなったのか?」に焦点を合わせて、オリジナルから一歩進めたものをつくることに合意した。

この試みはまさに画期的で、誰もやったことがない。「誰だって映画監督なら、一本完成させたあと、あそこはこうすべきだった、あそこはああした方がよかった、と思うものだ。でも、いったん公開してしまえば、会社はそれに手直しなどさせてはくれない。ところがこんどはうまく理解しあえたんだよ」とスピルバーグはいふ。

とにかく、彼はそのためにデス・バレーとバーバンク・スタジオに新たにカメラを据え、特撮部分を中心に撮影を再開した。そして、未公開のフィルムを慎重に選び、オリジナルから不要な部分を除き、再編集して「未知との遭遇<特別編>」を完成させたのである。

9月20日(土)より話題のロードショー

●特別鑑賞券¥1100 (一般¥1400の処 学生¥1200) 劇場窓口にて発売中!

歌舞伎町・コマ劇場となり

新宿プラザ劇場 (200) 9141